

令和4年宮崎県子どもの生活状況調査結果について (コロナ禍における子どもの貧困緊急実態調査結果)

1. 調査の概要

(1) 目的

新型コロナの長期化が生活困窮世帯の子どもに与える影響が懸念されるため、実態調査を実施することで、生活状況や必要とされるニーズを把握するとともに、その結果を行政、関係機関及び関係団体と共有し、きめ細かな施策の運用を図る。

(2) 対象

無作為抽出した県内の中学2年生及びその保護者の約半数（5,500組）

(3) 方法

調査票2種（中学生票・22問、保護者票・28問）を郵送し、紙で郵送又はオンライン回答の選択制により回収。

(4) 調査期間

令和4年10月31日から11月30日まで

(5) 回答数

調査対象世帯数： 5,500世帯
有効回答数： 1,944組
回答率： 35.3%

(6) その他

調査における質問項目及び分析に際しては、「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書（内閣府）」を基本とした。

【主な調査結果】

(保護者の状況)

表1

	全国	本県
「等価世帯収入」の中央値	317.54万円	245.97万円
上記値の1/2未満の世帯(以下「1/2未満世帯」)の割合	12.4%	12.0%

※「等価世帯収入」
年間収入の回答の選択肢の中央値をその世帯の収入の値とし(例:「50～100万円未満」であれば75万円)、同居家族の人数の平方根をとったもので除した値。

表2

	全国	本県		
		全体	1/2未満世帯	ひとり親世帯
ひとり親世帯の割合	12.5%	15.0%	49.4%	—
生活が「苦しい・大変苦しい」世帯の割合	25.3%	30.1%	72.1%	55.3%
大卒以上の進学を希望する世帯の割合	50.1%	42.6%	17.2%	22.0%
コロナ前と比較し収入の減少した世帯の割合	32.5%	25.8%	48.9%	31.3%

表3

	就学援助	児童扶養手当	生活保護
1/2未満世帯における支援の利用状況	54.1%	46.4%	6.0%
ひとり親世帯における支援の利用状況	51.9%	66.3%	5.5%

(子どもの状況)

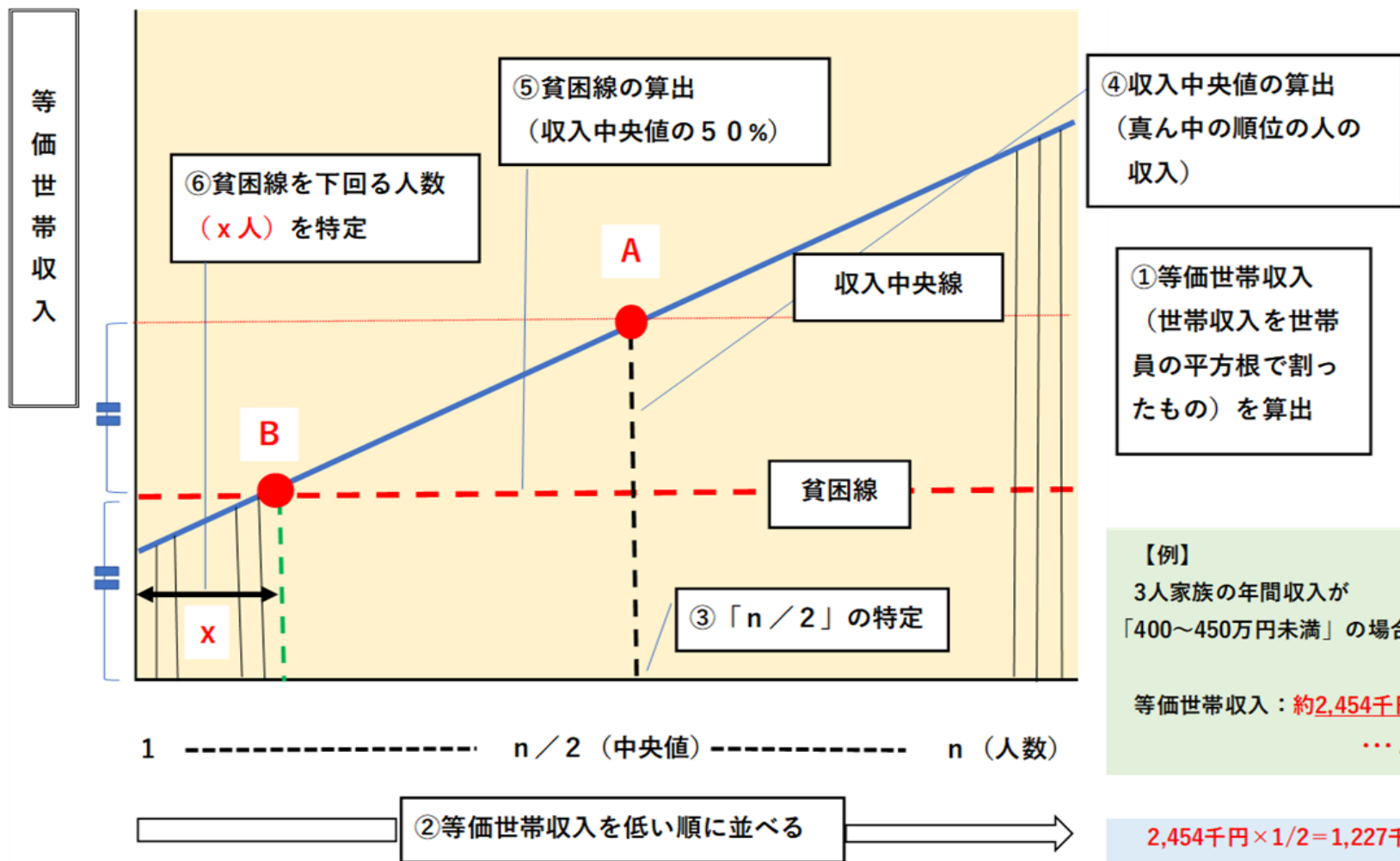
表4

	全国	本県		
		全体	1/2未満世帯	ひとり親世帯
毎日(週5日)通学する生徒の割合	—	94.4%	88.8%	87.3%
成績が「やや下の方・下の方」の割合	33.0%	29.0%	46.4%	40.9%
大卒以上の進学を希望する生徒の割合	49.7%	26.4%	12.4%	16.2%
朝食を毎日食べる生徒の割合	82.0%	83.1%	73.0%	70.1%
逆境体験のない生徒の割合	75.5%	76.3%	51.5%	32.6%
おこづかいの平均金額	—	5,211円	4,746円	4,641円
コロナ前と比較し授業の理解度が減った生徒の割合	26.4%	26.7%	38.6%	35.4%

表5

	学習支援	こども食堂	相談場所
1/2未満世帯における支援の利用状況 (利用したことがある生徒の割合)	5.6%	5.6%	2.1%
1/2未満世帯における支援の利用状況 (利用したい生徒の割合)	39.9%	21.5%	18.5%
ひとり親世帯における支援の利用状況 (利用したことがある生徒の割合)	4.8%	5.5%	2.4%
ひとり親世帯における支援の利用状況 (利用したい生徒の割合)	36.1%	18.6%	12.4%

【参考】



【例】
3人家族の年間収入が
「400~450万円未満」の場合

等価世帯収入：約2,454千円
... A

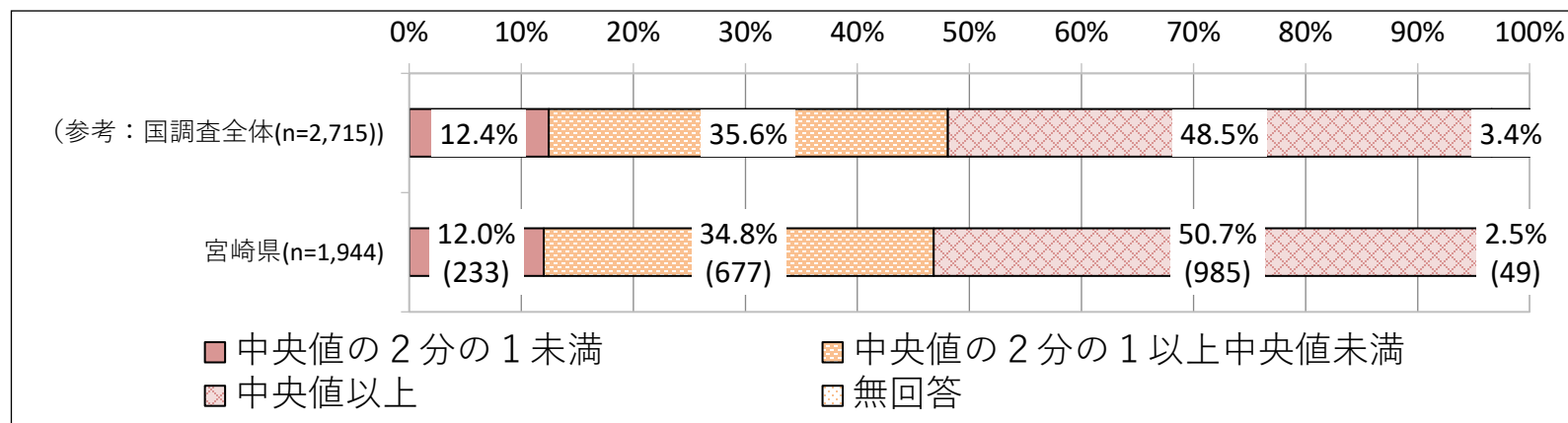
2,454千円 $\times 1/2 = 1,227$ 千円
... B

2. 保護者の生活状況

(1) 世帯収入の分類

令和3年の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した※。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは12.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは34.8%、「中央値以上」に該当するのは50.7%であった。

※等価世帯収入等については次ページ参考参照

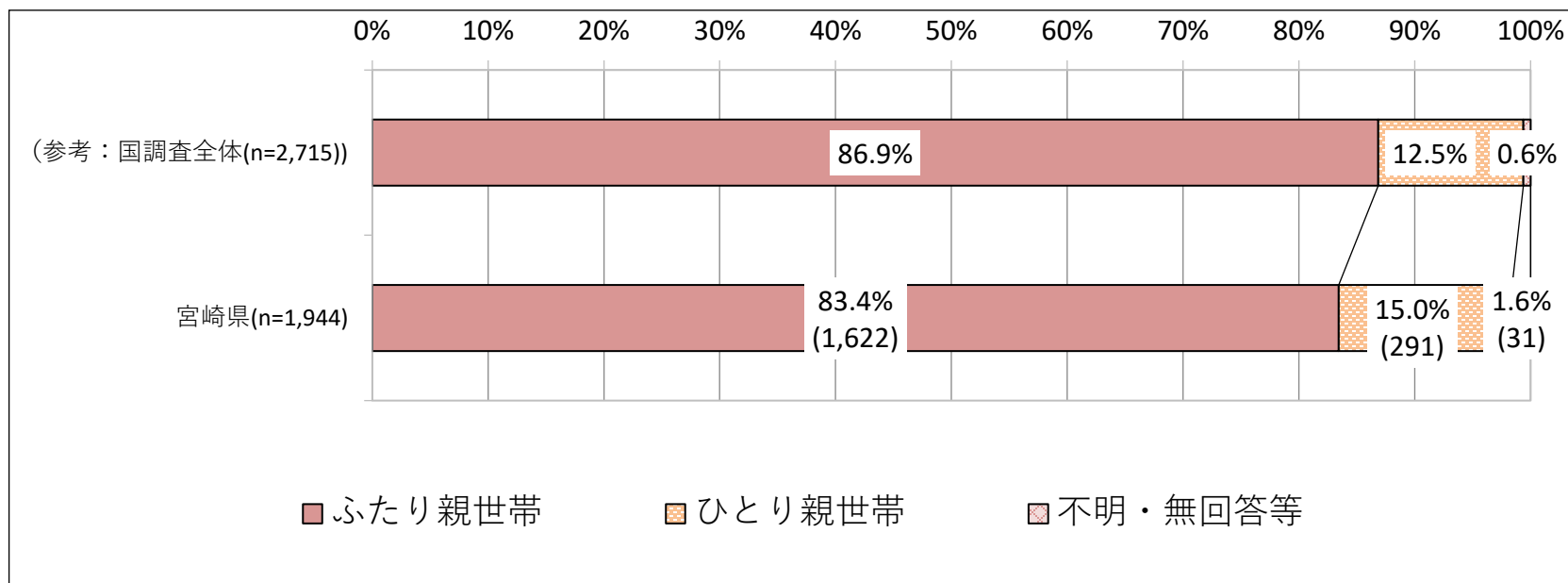


※ () 内は回答数

本調査における世帯収入（等価世帯収入）の平均の中央値は、245.97万円、中央値の2分の1は122.98万円（参考：全国調査における平均の中央値は317.54万円、中央値の2分の1未満は158.77万円）

(2) 子どもの親の婚姻状況

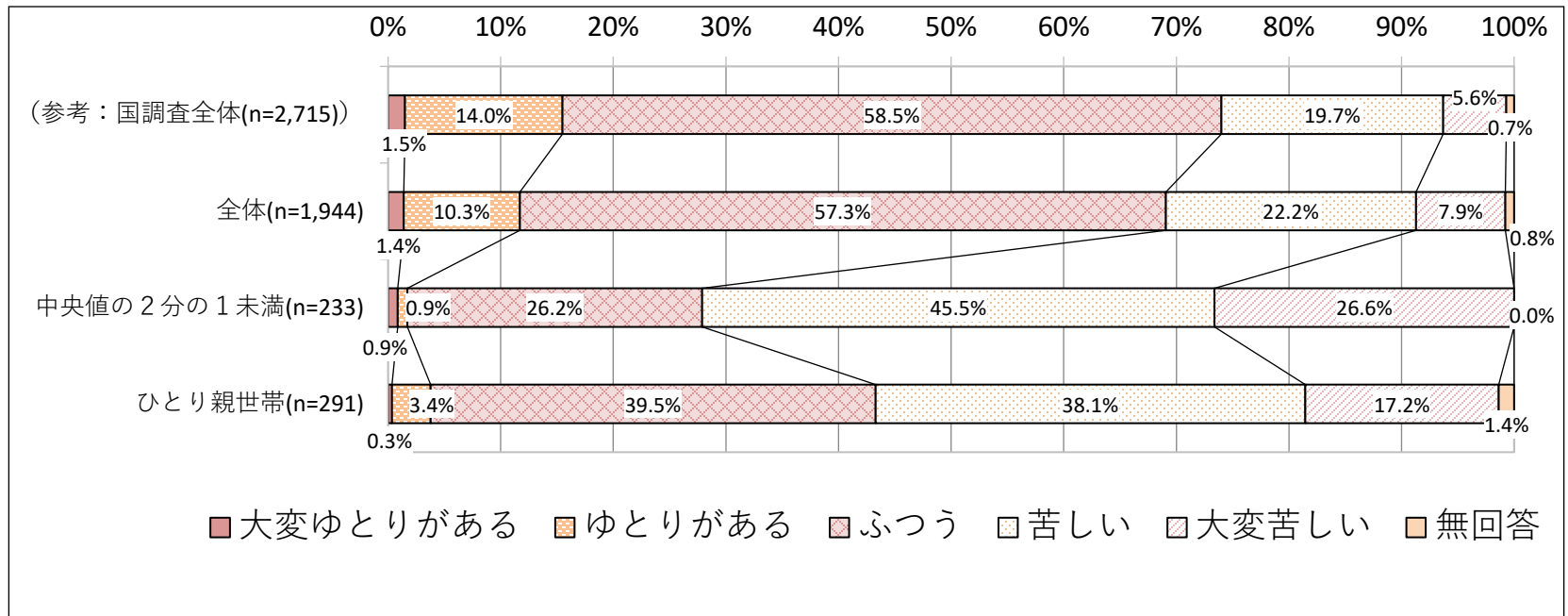
子どもの親の婚姻状況は、「ふたり親世帯（結婚、再婚、事実婚を含む。）」が83.4%、「ひとり親世帯（離婚、未婚、死別を含む。）」が15.0%となっており、「ひとり親世帯」である割合は、全国調査の結果12.5%と比較して高くなっている。



※ () 内は回答数

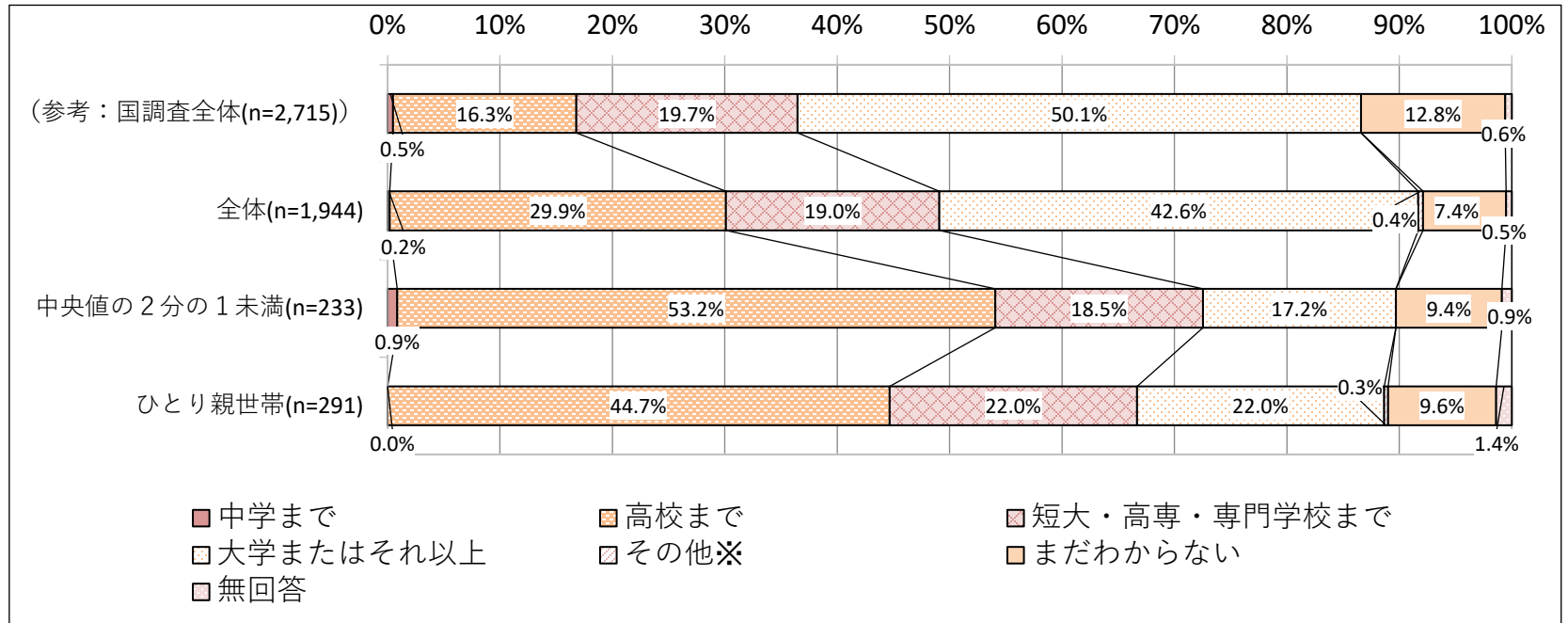
(3) 暮らしの状況

現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、全体では30.1%であったのに対し、「中央値の2分の1未満の世帯」では72.1%で全体の約2.4倍、「ひとり親世帯」では55.3%で全体の約1.8倍となっている。



(4) 子どもに対する進学段階の希望・展望

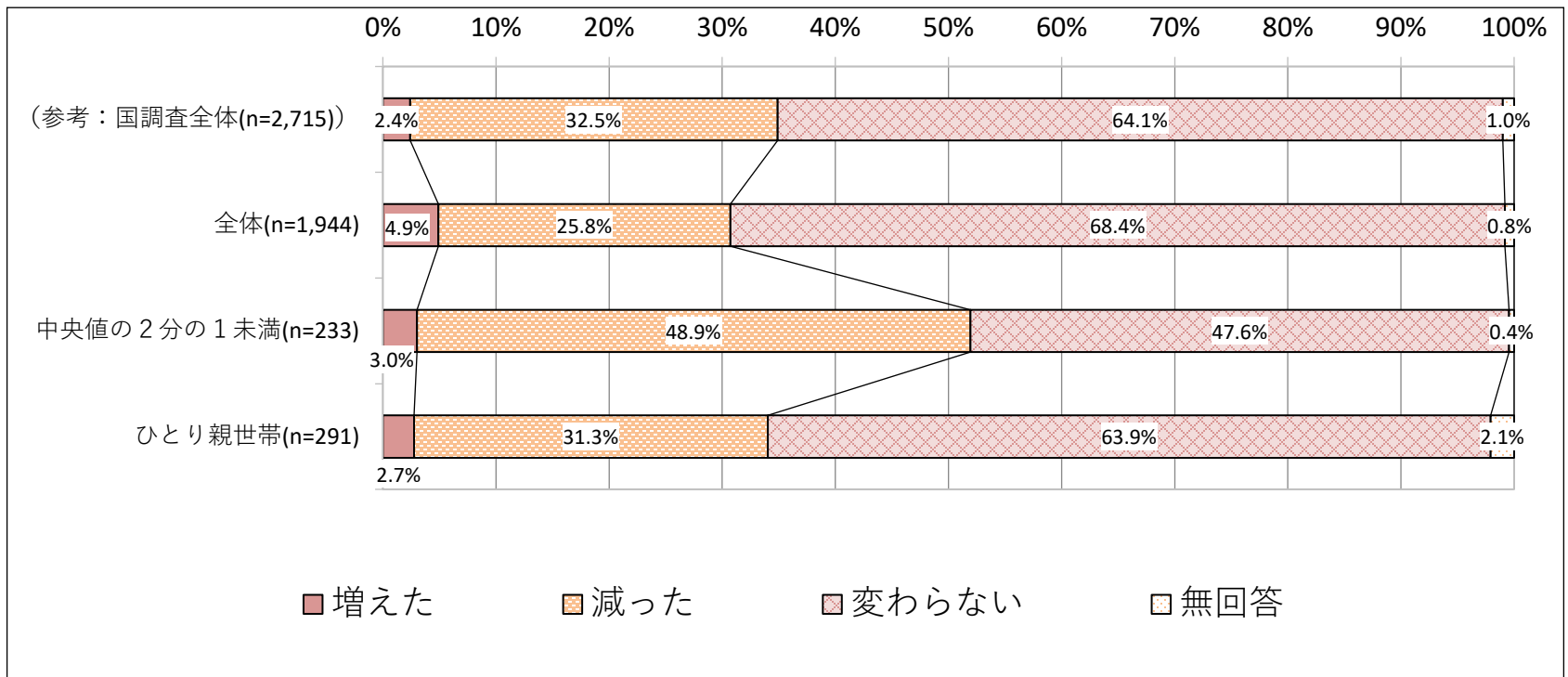
大学またはそれ以上と回答した割合は、全体では42.6%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では17.2%、「ひとり親世帯」では22.0%と、全体と比べて低くなっている。



※「その他」については、全国調査の後、共通調査票に追加された選択肢

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響

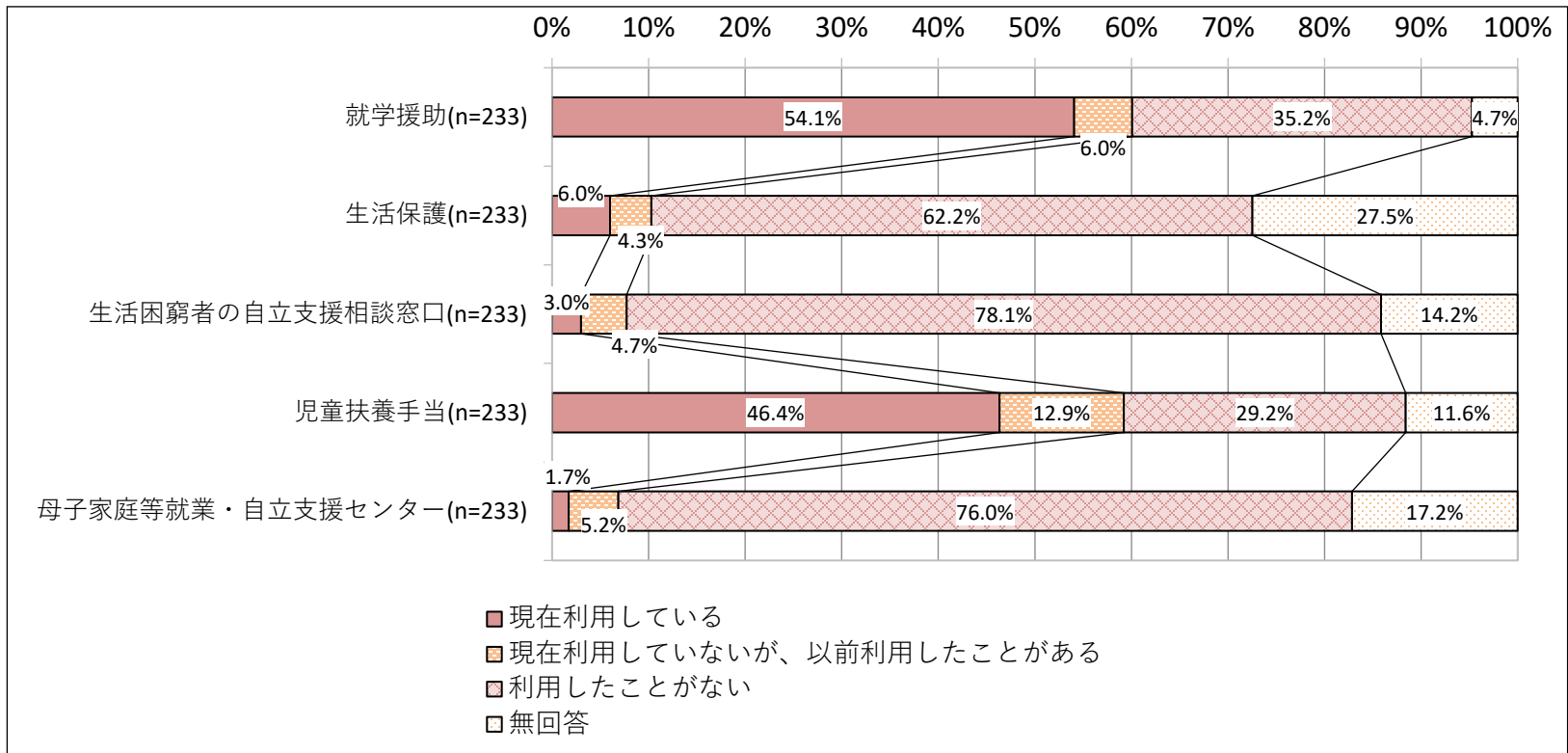
「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、全体では25.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では48.9%、「ひとり親世帯」では31.3%と、全体と比べて高くなっている。



(6) 支援の利用状況①

支援制度の現在の利用状況について、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「修学援助」が54.1%、「児童扶養手当」は46.4%と5割前後の利用割合となっているが、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合については、いずれも1割未満と低くなっている。

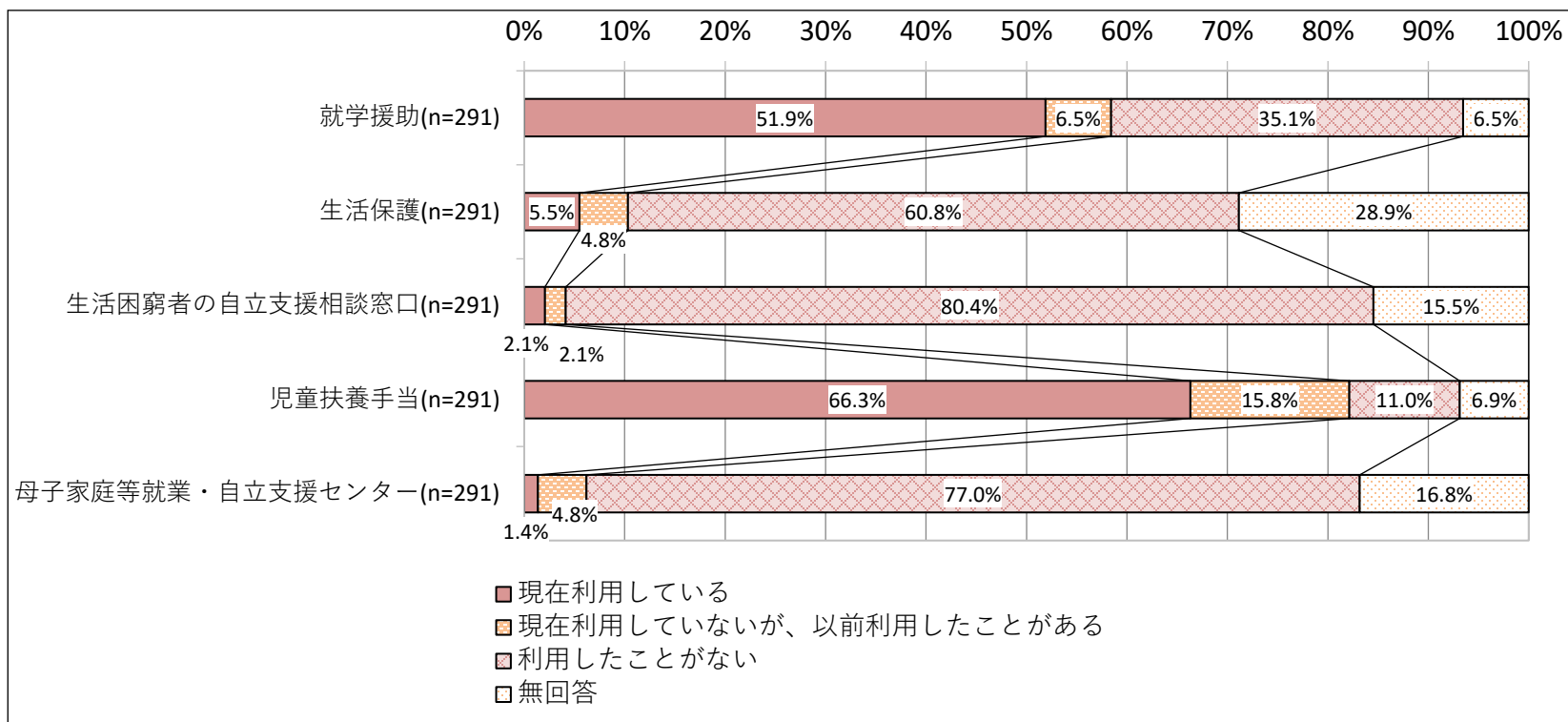
(中央値の2分の1未満世帯)



(7) 支援の利用状況②

支援制度の現在の利用状況について、「ひとり親世帯」では、「修学援助」が51.9%、「児童扶養手当」は66.3%と5割以上の利用割合となっているが、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合については、いずれも1割未満と低くなっている。

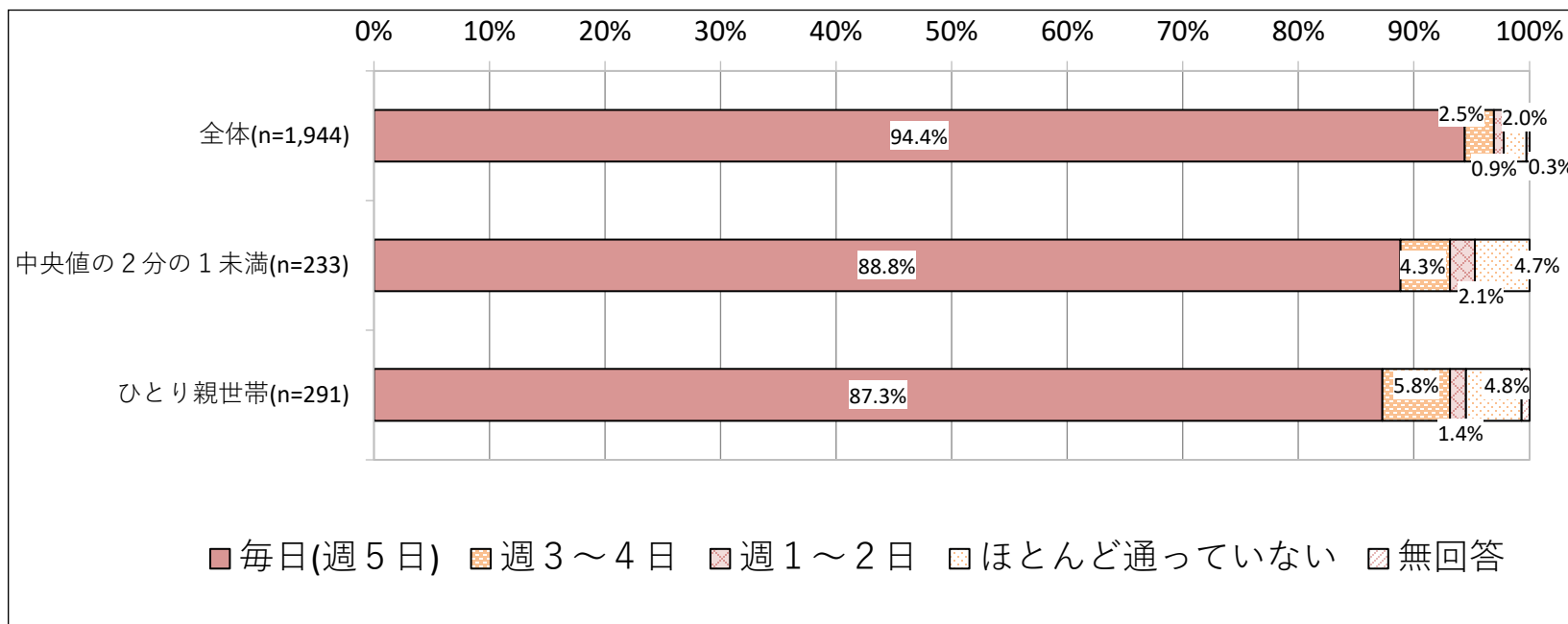
(ひとり親世帯)



3. 子どもの状況

(1) 学校への通学頻度

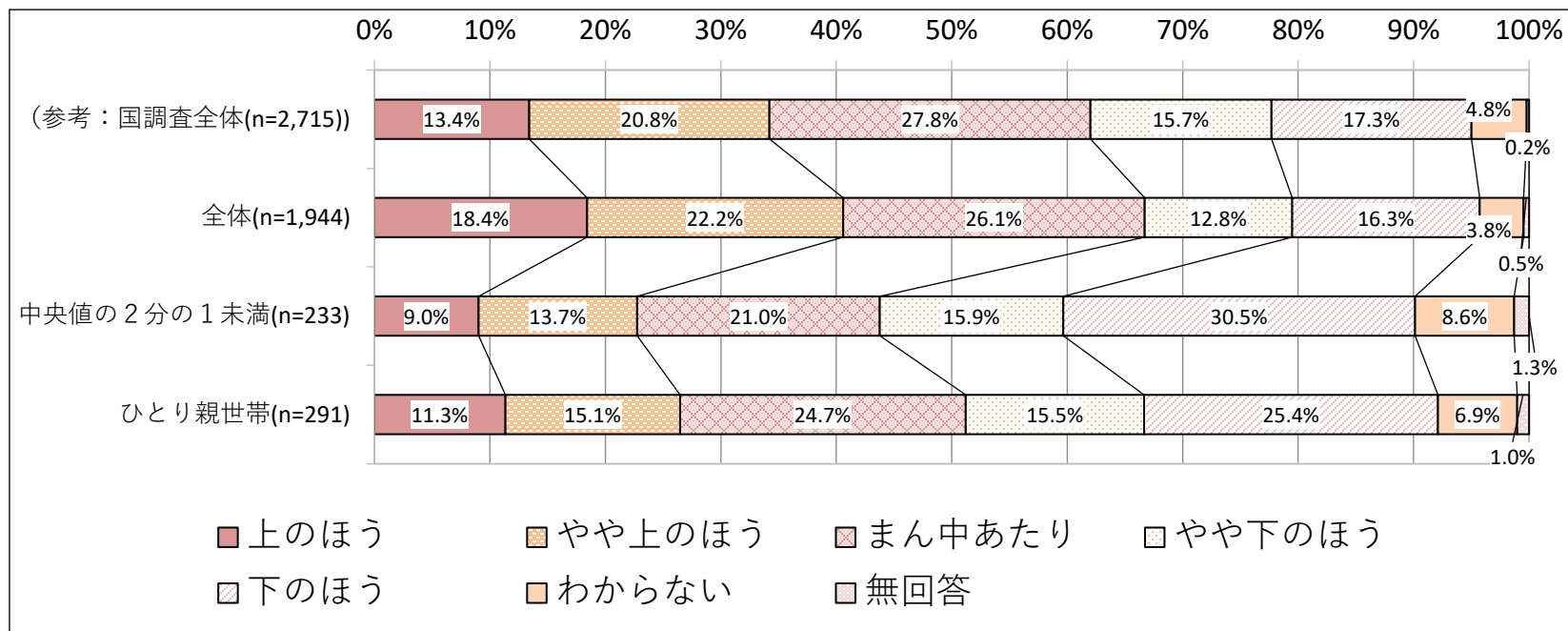
学校への通学頻度について「毎日（週5日）」と回答した割合は、全体では94.4%であったのに対して、「中央値の2分の1未満」の世帯では88.8%、「ひとり親世帯」では87.3%で全体より低くなった。



※本調査項目については、県調査において独自に行ったもの

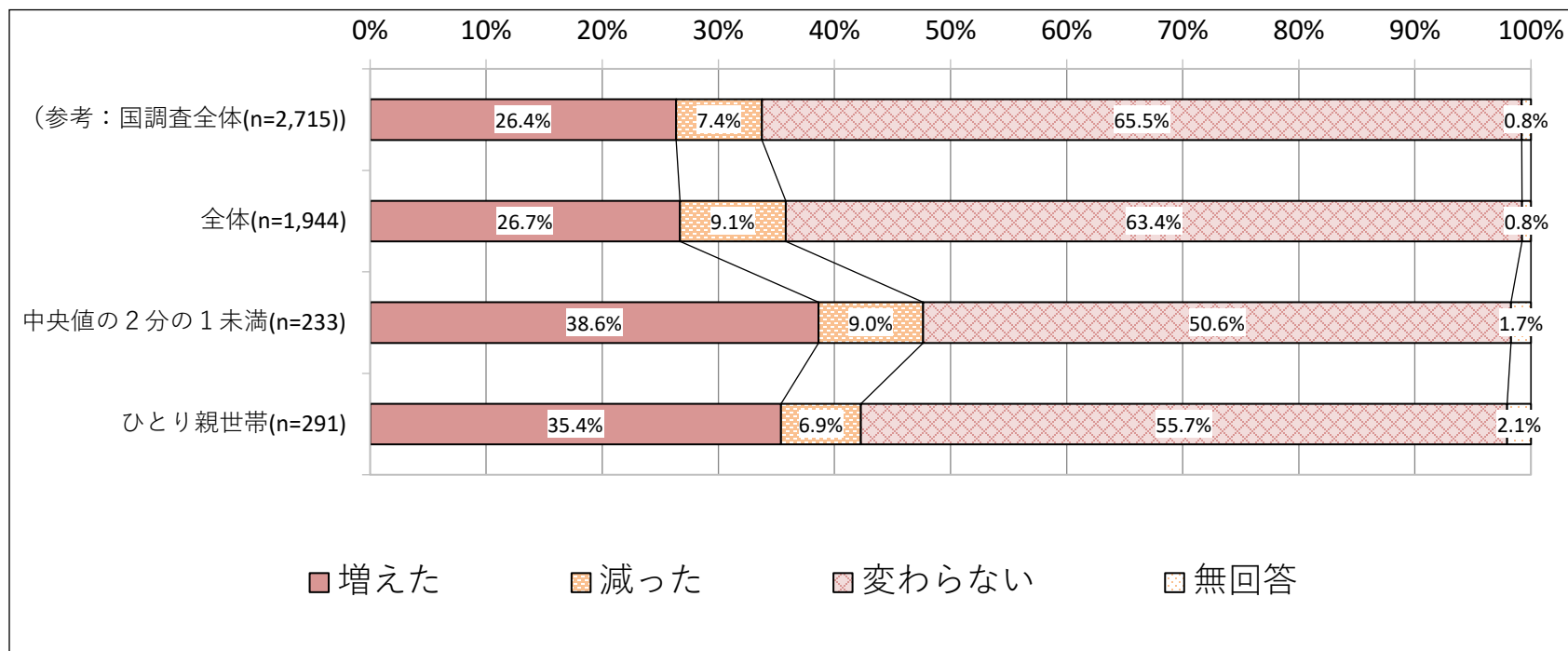
(2) 成績の状況

クラスの中での成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では29.0%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では46.4%、「ひとり親世帯」では40.9%と全体と比べて割合が高くなった。



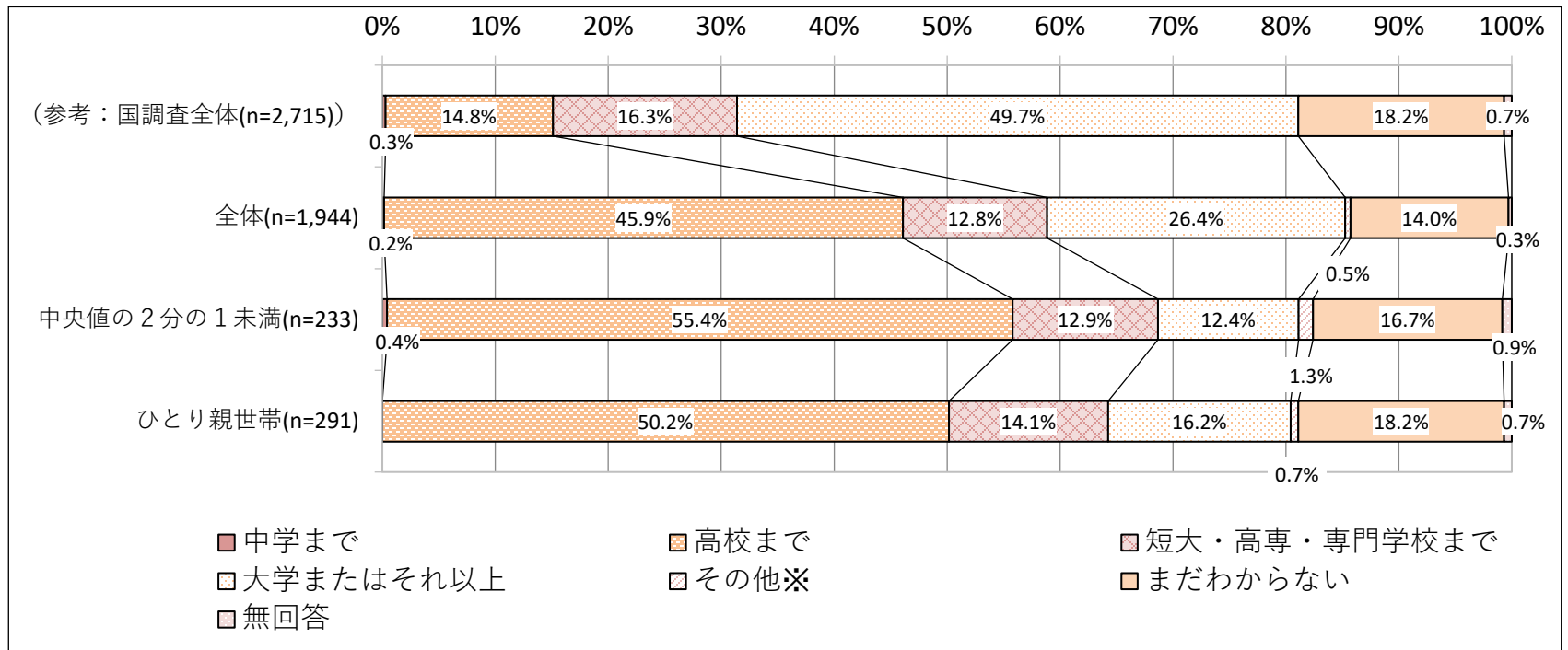
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による学業への影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、全体では26.7%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では38.6%、「ひとり親世帯」では35.4%と全体と比べて割合が高くなった。



(4) 進学希望

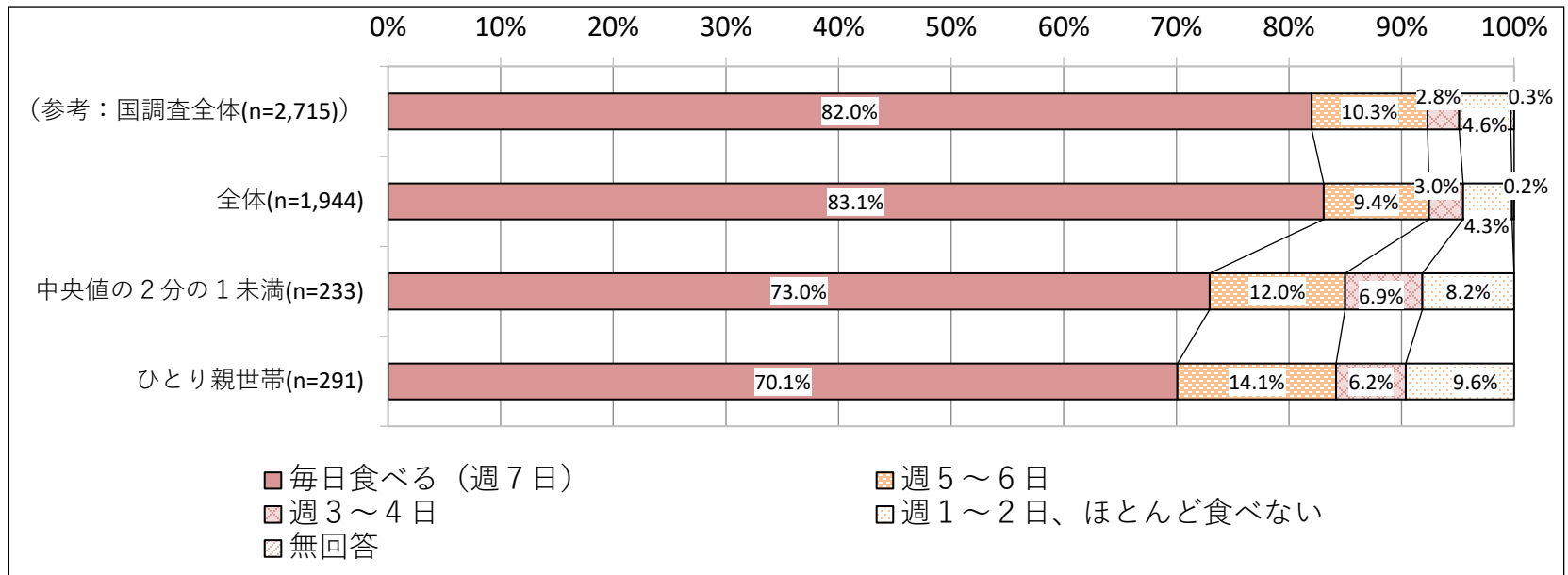
「大学またはそれ以上」まで進学したいかについて、全体では26.4%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では12.4%、「ひとり親世帯」では16.2%と全体と比べて割合が低くなった。



「その他」については、全国調査の後、共通調査票に追加された選択肢

(5) 朝食の状況

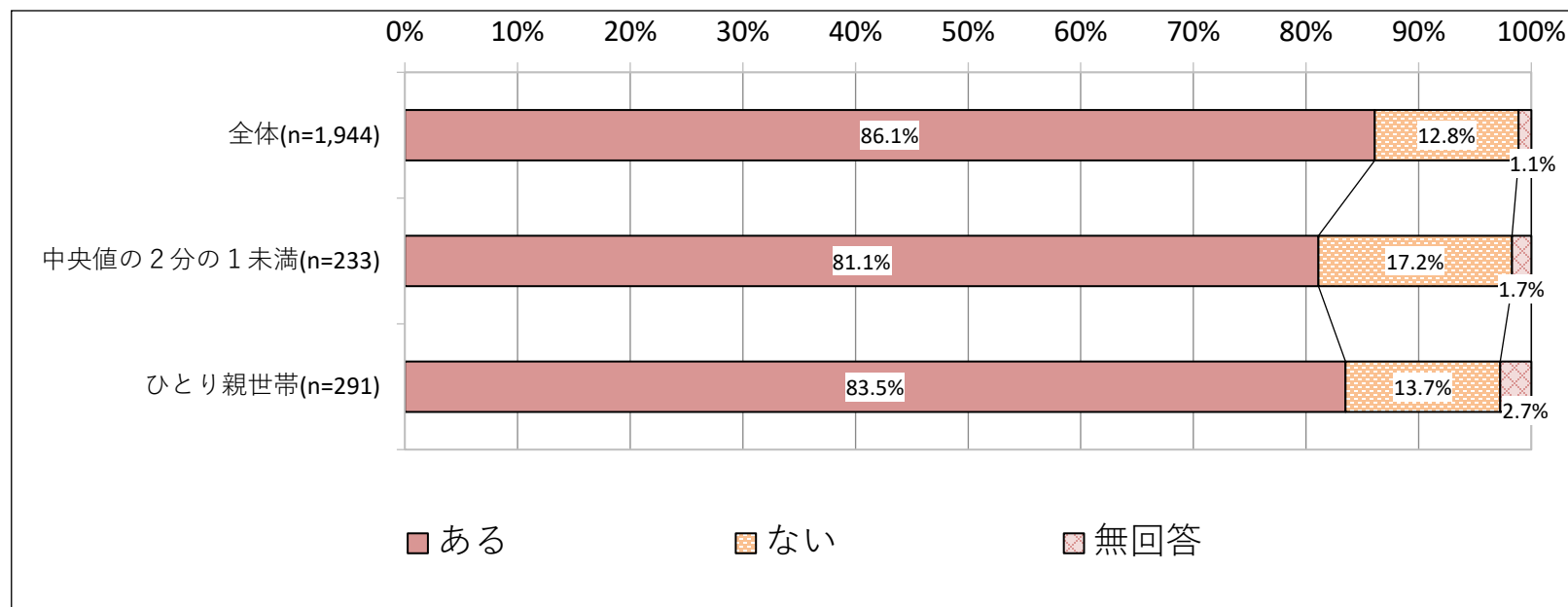
朝食を毎日食べるかについて、全体では83.1%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では73.0%、「ひとり親世帯」では70.1%と全体と比べて割合が低くなった。



(6) 自由に使えるお金（お小遣い）の状況

自由に使えるお金の有無について、「ない」と回答した割合は全体では12.8%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では17.2%、「ひとり親世帯」では13.7%と全体と比べて割合が高くなった。

また、「ある」の平均金額は、全体では5,211円であったのに対して、「中央値の2分の1未満」では4,746円、「ひとり親世帯」では4,641円と全体と比べて低くなった。

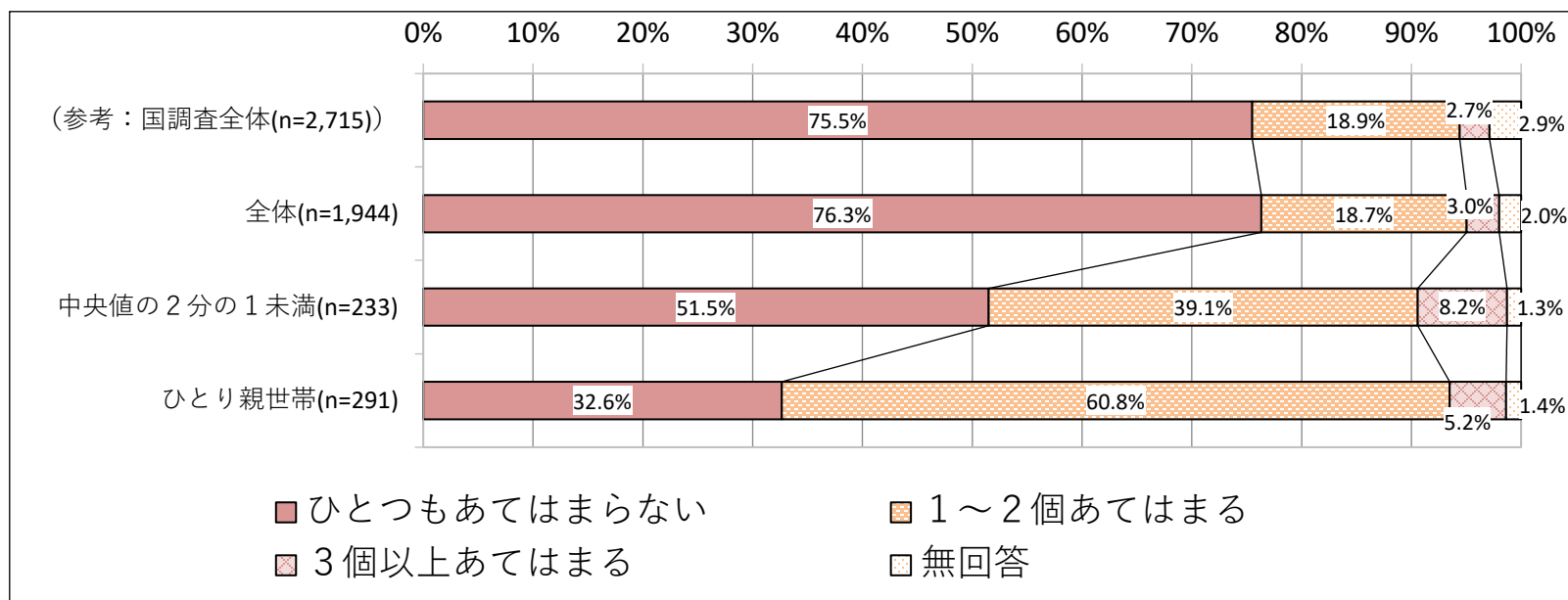


※本調査項目については、県調査において独自に行ったもの

(7) 逆境体験の状況

「逆境体験」に関する8項目※について、「ひとつもあてはまらない(0個)」と回答した割合は、全体では76.3%であったのに対し、「中央値の2分の1未満」では51.5%、「ひとり親世帯」では32.6%と全体と比べて割合が低くなった。

※8項目については次ページ参考参照



【参考】

(質問)

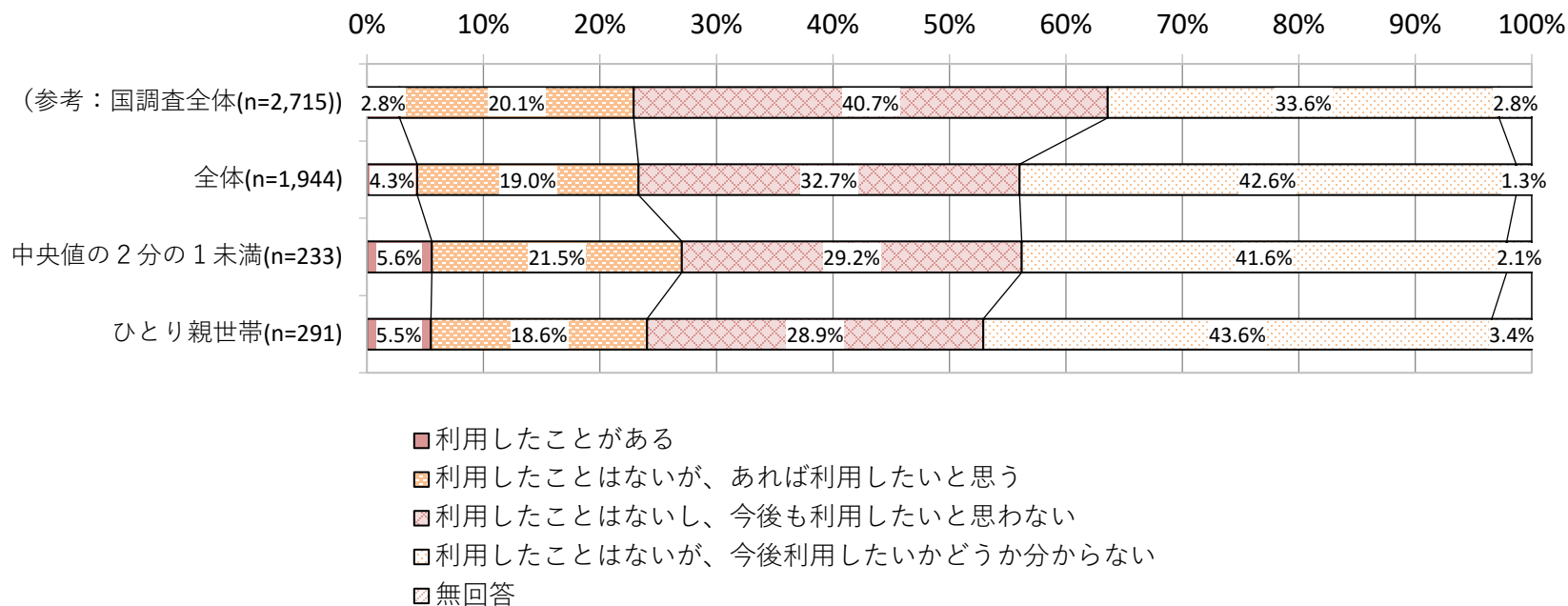
あなたは今までに、以下のa～hのようなことがありましたか。あてはまる個数を答えてください。

- a. 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b. 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げられるといったことがよくある。またはけがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- c. 家族の誰からも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d. 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
- e. 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- f. 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物でおどされたことが一度でもある
- g. 一緒に住んでいる人に、お酒を大量に飲んだり麻薬を使ったりして、自分の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- h. 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

(8) 支援の利用状況①

「こども食堂など」について、「利用したことがある」と回答した割合は、全体では4.3%、「中央値の2分の1未満」では5.6%、「ひとり親世帯」では5.5%であった。

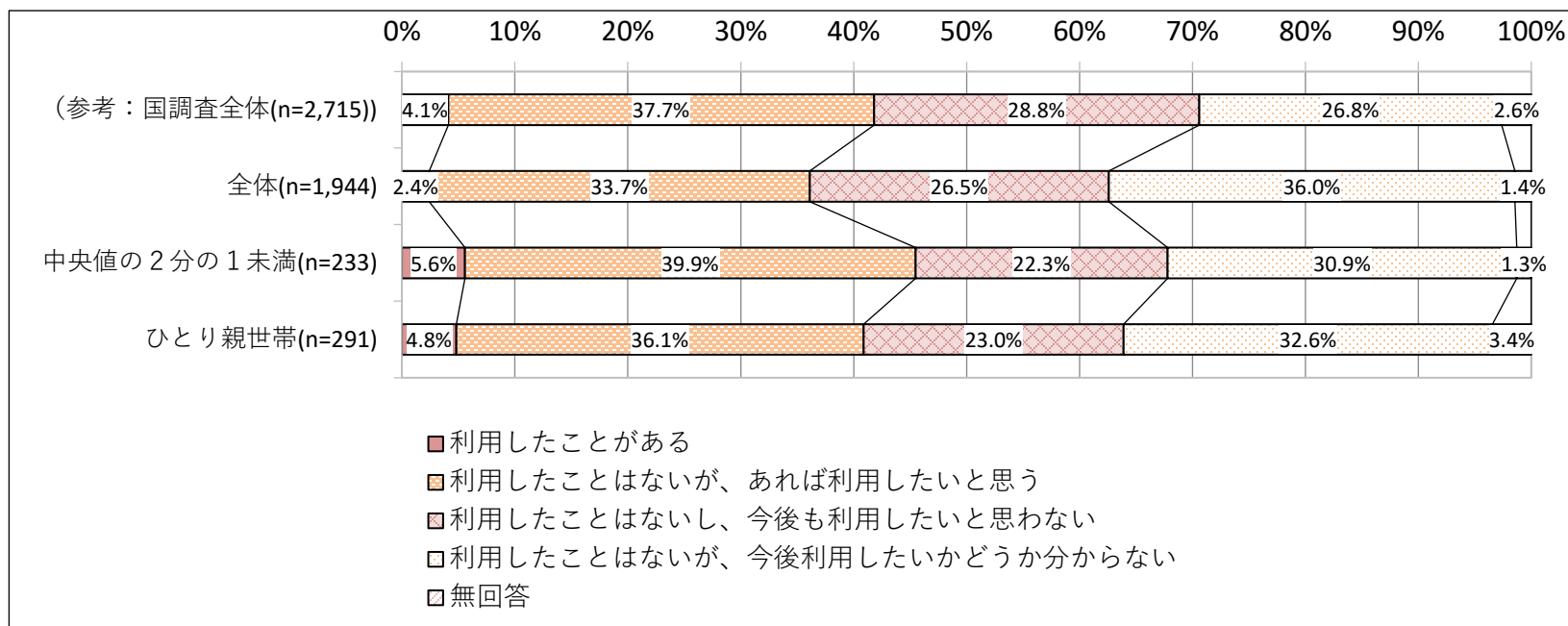
また、「利用したことはないが、あれば利用したい」と回答した割合は、全体では19.0%、「中央値の2分の1未満」では21.5%、「ひとり親世帯」では18.6%であった。



(9) 支援の利用状況②

「無料又は低額の学習支援」について、「利用したことがある」と回答した割合は、全体では2.4%、「中央値の2分の1未満」では5.6%、「ひとり親世帯」では4.8%であった。

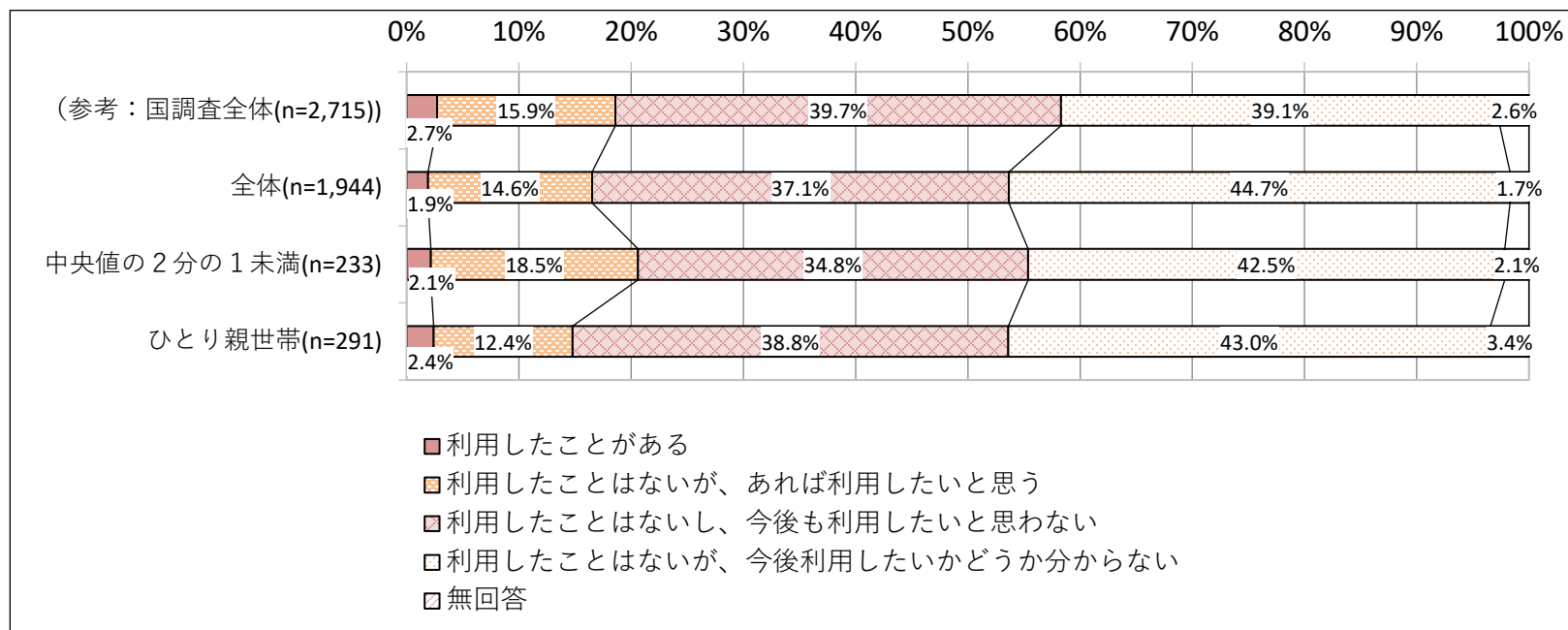
また、「利用したことはないが、あれば利用したい」と回答した割合は、全体では33.7%、「中央値の2分の1未満」では39.9%、「ひとり親世帯」では36.1%であった。



(10) 支援の利用状況③

「家や学校以外で何でも相談できる場所」について、「利用したことがある」と回答した割合は、全体では1.9%、「中央値の2分の1未満」では2.1%、「ひとり親世帯」では2.4%であった。

また、「利用したことはないが、あれば利用したい」と回答した割合は、全体では14.6%、「中央値の2分の1未満」では18.5%、「ひとり親世帯」では12.4%であった。



(11) 支援制度の利用による変化

各種支援制度を利用したことがある場合の利用による変化の状況について、「友達が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」、「楽しみなことが増えた」項目で、「全体」より「中央値の2分の1未満」及び「ひとり親世帯」が高くなった。

また、「勉強がわかるようになった」、「勉強する時間が増えた」項目で「全体」より「中央値の2分の1未満」が高くなった。

